

# 川崎重工グループ CSR報告書 2012 (ダイジェスト版)



## 川崎重工業株式会社

CSR報告書編集委員会

<http://www.khi.co.jp/>

### 印刷での配慮



有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式を採用しています。



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インクを使用しています。

### 色覚ユニバーサルデザインへの配慮



色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に見やすいように配慮して作成し、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)から認証を取得しています。

### 用紙での配慮



この印刷物は適切に管理された森林からの原料を含むFSC®認証紙を使用しています。



川崎重工業は、次世代育成支援対策推進法に基づき、次世代の育成に向けての積極的な取り組みを行う企業として兵庫労働局から認定されています。

# すべてのステークホルダーの方々に 川崎重工グループのCSRに関する取り組みを ご理解いただける効果的な報告を目指しています。

読者の皆様からいただいたアンケート結果や第三者意見などを踏まえ、  
お読みいただく目的等によって選んでいただけるように、下記の3種類の報告を用意しました。

**1** 冊子版(本誌) ..... ダイジェスト版と位置付け、主要な取り組み内容をコンパクトにご紹介します。  
冊子としては、2011年度版より8ページ削減し、用紙も薄いものにして、読みやすくしました。

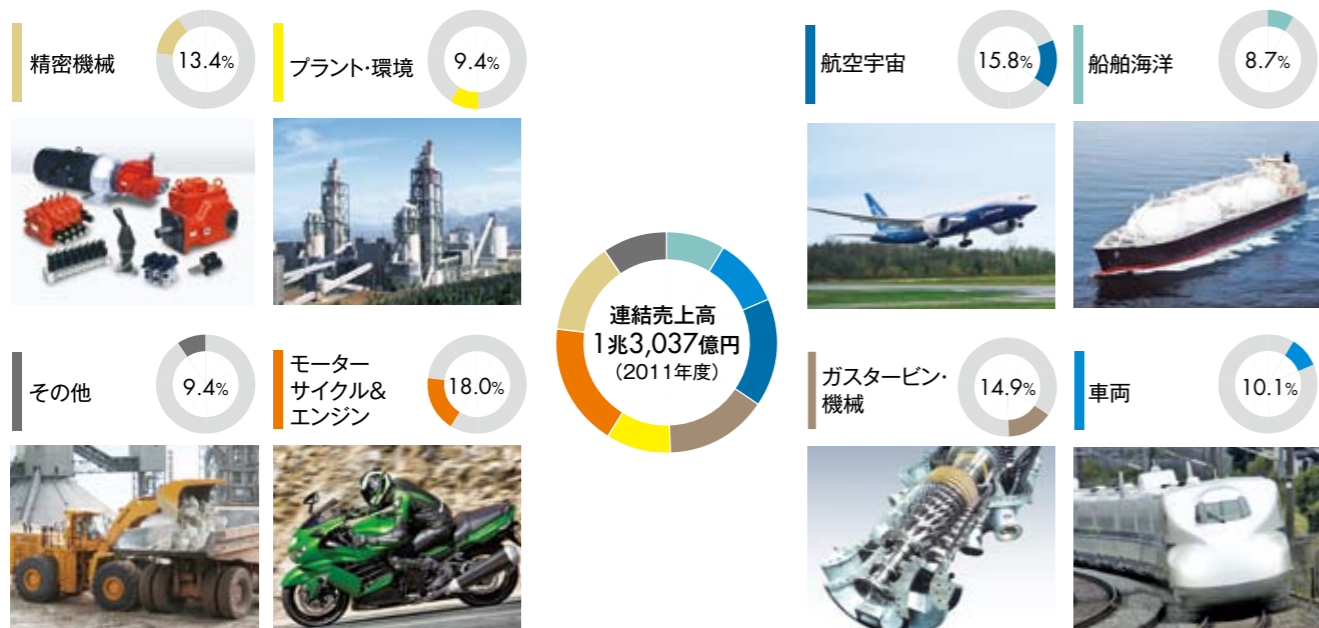
**2** フルレポート(Web) ..... 冊子の内容に加え、より詳細な内容をご紹介します。  
通常のWebでお読みいただくものと、ダウンロード用のPDFファイルを掲載しています。  
<http://www.khi.co.jp/csr/index.html> (川崎重工グループWebサイトの「CSR情報」)  
<http://www.khi.co.jp/csr/report/2012/index.html> (PDFファイル)

**3** 環境情報詳細版(Web) ..... 環境情報に特化したPDFファイルです。環境データ集もこちらに掲載しています。  
<http://www.khi.co.jp/csr/report/detail/2012/index.html> (PDFファイル)

## 川崎重工グループの事業概要

川崎重工グループは、川崎重工業を中核企業とし、国内外の100に及ぶ関連企業で構成されています。送り出す製品は、航空機、鉄道車両、モーターサイクル、船舶、エネルギー設備、各種産業機械、土木建設機械など、文字通り陸・海・空にわたっています。これら幅広い事業分野が保有する先端技術をもって、人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献すること—それが、川崎重工グループの理念です。

世界をリードする総合エンジニアリング企業として、また、Kawasakiブランドで知られる、モーターサイクル、ジェットスキー®など、レジャー製品の世界的メーカーとして、川崎重工グループは、その技術とブランド力で、人々と社会の期待に応えていきます。



## 編集にあたって

当社グループは、1999年から毎年、「環境報告書」「環境・社会報告書」を発行してきましたが、2010年からは「CSR報告書」にタイトルを改めて発行しています。CSR報告書2012では、以下の内容を紹介しています。

●全体の構成は、「川崎重工グループのCSR」の5つのテーマ(下記)に沿った報告としています。

- ① 事業による価値創造
- ② マネジメント
- ③ 従業員
- ④ 環境への取り組み
- ⑤ 社会貢献

●以下については特集としてご紹介します。

**特集1** 震災後1年余。この間の各種の取り組みを報告します。

**特集2** 初めての取り組みとして行った有識者とのダイアログの概要を報告します。

## 対象範囲

川崎重工グループ全体

## 対象期間

2011年度(2011年4月~2012年3月)  
一部2012年度を含む

## 発行頻度

年度報告書として毎年1回発行予定

編集・発行元: CSR報告書編集委員会  
(編集事務局: CSR推進本部CSR部)

発行責任者: CSR推進本部長

※本報告書制作にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」およびGRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン3.1版」を参考にしています。

## 免責事項

本報告書は、当社グループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営計画・経営方針に基づいた予測が含まれています。これら計画・見通し・予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が記述内容とは異なったものとなる可能性があります。

## 目次

川崎重工グループの事業概要	01
トップメッセージ	03
川崎重工グループのCSR	05
CSR課題項目と取り組みについて	07
<b>特集1</b> 東日本大震災から1年余が過ぎて —川崎重工グループの取り組み—	09
<b>特集2</b> 川崎重工グループ 第一回有識者ダイアログ	11

## Theme 1 事業による価値創造 総合技術力で未来をひらく 価値を創り出します

川崎重工グループの目指す社会 ~エネルギー・環境分野では~	13
製品品質向上への取り組み	15
製品安全への取り組み	16
お客様満足度向上への取り組み	

## Theme 2 マネジメント 社会の信頼に応えるため、 いつも誠実に行動します

企業統治の体制	17
監査の体制と状況	
コンプライアンス	
危機管理	18
リスク管理	
情報セキュリティ管理	
株主・投資家との関わり	19
お取引先との関わり	

## Theme 3 従業員 ずっと働きたい職場を みんなで作ります

「人財」の育成	20
活力ある職場風土の実現	
多様性(ダイバーシティ)の尊重	21
人権の尊重	22
安心して働くことができる安全な職場の構築	

## Theme 4 環境への取り組み 「地球が微笑むものづくり」を 追い求めます

環境経営の考え方	23
環境経営組織	
事業活動による環境負荷および製品を通じた環境貢献	24
環境ビジョン2020	25

## Theme 5 社会貢献 社会と未来につながる 貢献の輪を広げます

社会貢献活動状況(2011年度)	27
第三者意見	29
会社概要/事業所一覧	30

## グローバルに社会基盤を担う企業としての 社会的責任を果たしていくために



### 川崎重工グループの社会的責任

当社グループは、1878年に造船事業を開始して以来、鉄道車両や航空機、さらにはカワサキ・ブランドで知られるモーターサイクルなどの輸送用機器・システム分野で事業基盤を築くとともに、ガスタービン、ガスエンジン、エネルギー環境プラントなどのエネルギー環境分野や、産業プラント、油圧機器、ロボットなどの産業機器分野へ、時代の変化に応じて事業を拡大させてきました。2007年には「カワサキグループ・ミッションステートメント」を制定し、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」をその最上位に掲げ、当社グループが果たすべき社会的使命を明確にしました。このグループミッションを継続的に実践し発展させていくために、「企業の社会的責任」という観点から具体的な行動目標に展開し推進していくことを、川崎重工グループにおけるCSR活動と位置付けています。企業活動のあらゆる局面においてステークホルダーの皆様に対する責任を意識して行動するとともに、「現在の社会と未来の社会」のよりよい発展に貢献していきます。

2011年度には、川崎重工グループとして求められる姿をより具体的に追求するために、有識者ダイアログを行いました。(11-12ページをご覧ください。)有識者の方々からいただいたコメントやご提言は、ステークホルダーのご意見を代弁するものとして、CSR活動に反映させていきます。

### 東日本大震災から1年余が過ぎて

2011年は未曾有の自然災害の脅威が深く心に刻まれた年となりました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を祈念致します。

当社グループでは、阪神・淡路大震災の経験を機に「従業員と家族の生命を守る」「自らの事業活動の正常化」「地域社会への責任と貢献」を基本方針とする事業継続計画を策定していましたが、東日本大震災発生を契機とし、「社会インフラを担う企業として大規模災害が発生した際でも社会的責任を果たすために継続しなければならない業務の遂行」を事業継続計画の重点項目として位置付け、見直しを行いました。(9-10ページをご覧ください。)

東日本大震災後には、社会の要請も変化しています。たとえば、非常時の電源セキュリティの観点から、信頼できるエネルギー供給システムや、節電時の運用も含めたエネルギー利用の効率化などに対する要請が高まりました。また、災害に強いまちづくりの必要性も一層明確になりました。当社グループはこれらの要請に積極的に応え、地域の特性を活かした自立型の分散発電システムや、これらの発電設備を備えた防災拠点など社会に対し新たな価値を提供し、安心・安全な社会の発展に貢献していく所存です。

### グローバル課題への挑戦

近年、新興国を中心として世界経済が加速度的に成長を続ける一方、温暖化などの環境問題が深刻化しつつあります。また、環境と資源を考えた未来のエネルギーのあり方も改めて問い直されています。さらに、新興国における輸送・産業等、社会の基幹インフラシステムの構築に対する要請もますます高まりを見せています。

グローバル社会からの期待に確実に応えていくためには、

社会やお客様の声を直接お聞きし、新たな価値を創造し提供することが重要だと考えています。こうした状況を受け、当社グループは2012年4月にマーケティング本部を設置し、全社的な総合力を結集し、グローバルな視野に立ち、お客様との相互理解を得ながら事業を通じて貢献を果たしていく活動をより強化していくこととしました。

これらの取り組みを通じて、社会・経営環境変化に対応し、絶えず革新・変革を続けながら社会やお客様をはじめあらゆるステークホルダーの皆様にご貢献することで、企業としてもより一層成長することを目指していきます。

川崎重工株式会社  
取締役社長

長谷川 聡

# 川崎重工グループのCSR

川崎重工グループのグループミッションは、「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」。従業員一人ひとりがそれぞれの持ち場で、日々の業務活動の中で実践しています。これに「企業の社会的責任」という側面からより広い意識と行動目標を加え、さらに高いレベルでグループミッションを実現していくことを目指しています。

## 川崎重工グループのグループミッションとCSR

### 基本的な考え方

川崎重工グループのCSRは、グループミッションのより高いレベルでの実現のための努力の積み重ねです。私たちは、人間社会・地球環境の未来に貢献することがカワサキブランドの価値を向上させることであると認識し、下記の5つのテーマを推進します。

### CSRの5つのテーマ

- |                            |        |
|----------------------------|--------|
| 1. 総合技術力で未来をひらく価値を創り出します   | 事業     |
| 2. 社会の信頼に応えるため、いつも誠実に行動します | マネジメント |
| 3. ずっと働きたい職場をみんなでつくります     | 従業員    |
| 4. 「地球が微笑むものづくり」を追い求めます    | 環境     |
| 5. 社会と未来につながる貢献の輪を広げます     | 社会貢献   |

より高いレベルでの  
グループミッション  
の実現

### カワサキバリュー

- 多様なお客様の要望にこたえる
- テクノロジーの頂点を目指す
- 独自性・革新性を追求する

### グループ経営原則

- ① 高機能・高品質で安全な製品・サービスを世界の人々に提供する。
- ② 社会的責任を認識し、地球・社会・地域・人々と共生する。
- ③ 労使の信頼を企業文化とし、グローバルに“人財”を育成・活用する。
- ④ “選択と集中”“質主量従”“リスクマネジメント”を指針とする。

### グループ行動指針

- ① グローバルで長期的な視点に立つ。
- ② 困難な課題に挑戦する。
- ③ 目標の実現に向け、最善を尽くす。
- ④ 社会と人々から信頼される企業人となる。
- ⑤ 自主独立のプロフェッショナルとなる。
- ⑥ 誇りと喜びを共有する、カワサキのよきメンバーとなる。

多様なお客様の  
要望にこたえる

グループミッション  
「世界の人々の豊かな生活と  
地球環境の未来に貢献する  
“Global Kawasaki”」

独自性・革新性  
を追求する

テクノロジーの  
頂点を目指す

## 川崎重工グループのCSRの枠組みづくり

川崎重工グループのCSRは5つのテーマからなっています。テーマごとに個別領域を設け、その中でそれぞれの「目指す姿」を設定しました。

企業に対する社会の期待はさまざまです。私たちはこれを「お客様からのご要望」「第三者機関のCSR調査項目」「ISO 26000の中核主題」などから収集・集約し、この中から川崎重工グループとして取り組むべき課題項目を抽出しました。これらのCSR課題項目は、目指す姿に至るための「中期経営計画2010(2010~2012年度)」期間中の取り組み事項と位置付け、それぞれの担当部門が現状を自己評価し、「足りないところは補い、強みはより向上させる」ことを目標としてアク

ションプランを策定し、PDCAサイクルを回しています。(個別の課題項目への取り組み状況は、7-8ページをご覧ください。)

一方、「企業に対する社会の期待」も年々少しずつ変化しており、取り組むべき範囲も広がりつつあります。2012年度は、2013年度から始まる新しい中計の準備期間でもあります。この1年で当社のCSR課題項目を見直し、新たな中計期間に時代の変化をきちんと反映した活動を実施していきます。

## CSR活動組織

### 全社CSR委員会

委員長:社長  
委員:取締役、カンパニープレジデント、本社部門長、および常勤監査役  
CSRの大方針、重要事項を審議・決定するための組織です。

### 本社CSR企画ワーキンググループ

全社CSR委員会の諮問機動的なタスクチームです。  
当社ではどう取り組むかを議論し、全社CSR委員会に提言します。

### その他全社横断組織・委員会

- 地球環境会議
- 人財開発委員会
- リスク管理委員会
- 輸出関連法規遵守審査委員会
- 危機管理対策機構

### カンパニーCSR委員会

委員長:各カンパニープレジデント  
全社CSR委員会で決定された大方針のもと、各カンパニーの具体的な施策を決定・実行し状況を確認します。

### カンパニーCSR連絡会

各カンパニーCSR委員会事務局の情報連絡会です。

### 本社CSR委員会

委員長:本社管理部門担当副社長  
カンパニーCSR委員会の本社管理部門版です。

### 合同CSR連絡会(2011年度より)

従来は全社CSR委員会に対して本社CSR企画ワーキンググループが諮問した取り組みを各カンパニーが展開していました。2011年度よりカンパニーメンバーとも課題意識を共有し協働で議論するため、「合同CSR連絡会」を開催しています。

### CSR報告書編集委員会

毎年のCSR報告書の方向性を議論し、編集作業を行います。

## 川崎重工グループのCSRのテーマ・個別領域と「目指す姿」

テーマ	個別領域	目指す姿
全般	(CSR全般)	グループミッション(社会に対する当社の使命)をより高いレベルで実現します
1事業	製品開発	グループの総合力を活かして、高度な技術力で高機能・高品質の製品を開発します
	製品責任	お客様の視点に立った、「信頼」「安心」の製品・サービスを提供します
	お客様満足	お客様のニーズを満たし、感動を伴う製品・サービスを提供します
2マネジメント	コーポレート・ガバナンス	経営の透明性と健全性を追求し、事業部門の自立的な運営とともにグループ総合力の発揮を実現します
	コンプライアンス	風通しが良く自浄作用の働く組織を築き、信頼される企業風土を確立します
	リスク管理	事業目標の達成を阻害する重要なリスクを把握し、最適な対応が取れる体制を構築します
	情報セキュリティ	確実な情報セキュリティ対策を行い、情報の安心と安全を維持します
	情報開示・IR活動	適時的確に企業情報を発信し、開示内容もさらに一層充実させます
	お取引先	お取引先と共生し、公正なパートナーシップを継続するとともに、CSR活動の協働を推進します
3従業員	安全・衛生	心身ともに健康に働くことができる、安全で快適な職場環境を築きます
	人財開発	一貫した従業員の育成・強化を行い、人的価値を最大限に高めます
	人権	従業員の多様性を尊重し、さまざまな価値観と能力を受け入れ、活かす職場を目指します
4環境	地球環境	低炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現を目指します
	地域社会・日本社会	地域社会と共生・連携し、未来の夢のテクノロジーを担う次世代の育成を支援します
5社会貢献	国際社会	世界の国々の文化を尊重し、技術や人財の育成を通じて豊かさの実現に寄与します

# CSR課題項目と取り組みについて

## 全社取り組み項目の進捗状況

5-6ページで述べた「目指す姿」に至るためのアクションプランを策定し、PDCAサイクルを回しています。  
全社活動を推進する本社各部門のアクションプランと、その結果を踏まえた自己評価の変化を報告します。

方針や規則づくりなどのように単年度・ワンアクションで完了するもの、ダイバーシティのようにある程度時間をかけて周知を深めながら施策を重ねていくもの、環境活動のように単体からグループ会社に段階的に範囲を広げていこうとしているもの、コンプライアンス啓発活動のように「ここまでやればよい」というゴールがなく到達目標を持ちにくいものなどさまざまですが、項目ごとの特性を踏まえて地道に着実に活動を進めています。

★これから取り組みたい   ★★ある程度は取り組んでいる   ★★★かなり取り組んでいる   ★★★★十分だがさらに向上させていきたい

領域	取り組み項目	2011年度アクションプラン (CSR報告書2011記載)	現状自己評価 2011年3月⇒2012年3月 【実施状況補足説明】
全般	CSRの社内理解促進と浸透	説明ツールの作成 各部門・地域・階層での説明	★★⇒★★★★ 【事業所ごとの説明会の開催等】
	一般社会との対話 (日常的な各ステークホルダーとの コミュニケーション以外の取り組み)	試験的な対話の会の実施と活動への意見反映	★⇒★★ 【有識者ダイアログの実施】
マネジメント	コンプライアンス・倫理研修の 実効評価	全社共通活動の実施と階層別教育の中での研修	★★★★⇒★★★★ 【各活動実施+コンプライアンス意識調査実施】
	子会社の重要なリスクの把握	国内主要関係会社への展開	★★⇒★★★★ 【川崎重工と同じ枠組みでのリスク把握が可能に】
	事業継続計画の策定と見直し	事業部門ごとの事業継続計画策定と諸準備	★★⇒★★★★ 【各部門が事業特性に合わせた計画を作成済】
	株主・投資家コミュニケーションの 積極的実施	四半期決算ごとの説明会(機関投資家対象)実施、 決算発表時のQ&Aのweb公開	★★⇒★★★★ 【アクションプランの円滑な実施】
	お取引先へのCSRマネジメントの 要請と協働	お取引先CSRマネジメント方針の検討	★★★★⇒★★★★ 【CSR調達ガイドラインを策定、2012年4月に公開済】
従業員	安全、衛生、メンタルヘルス等への 取り組み	各種安全教育、メンタルヘルス対策、 生活習慣病対策、職場環境改善活動等実施	★★★★⇒★★★★ 【事業所ごとに実態に即した内容で実施していることを確認】
	定年までのキャリアを踏まえた 育成の取り組み	キャリアプラン研修の階層別展開の検討・実施、 知的資産のデータベース化	★★★★⇒★★★★ 【キャリアプラン研修の階層別展開、検討を完了】
	女性管理職登用への取り組み	若手女性社員に対する目標・参考となる 女性先輩社員の紹介や、 所属長への女性部下育成支援など	★★⇒★★ 【ダイバーシティ研修の実施】
	労働組合や従業員との対話、 信頼関係構築	各種労使協議の開催、従業員意識調査の実施	★★★★⇒★★★★ 【各種労使協議の開催】
環境	環境情報の把握の範囲の 全社・海外への拡大	対象を国内連結全子会社と 主要海外子会社に拡大	★★⇒★★★★ 【国内連結全子会社と主要海外子会社のEMS構築】
	国内外の子会社を含めた事業部門 ごとの環境負荷低減への取り組み	範囲を国内連結全子会社と主要海外子会社に 拡大、削減目標を公開	★★⇒★★★★ 【連結子会社の利用エネルギー量把握範囲を拡大】
	廃棄物削減、リサイクルの取り 組み、実績評価	廃棄物削減、リサイクルの取り組みの充実と 実績評価、電子マニフェストの導入	★★⇒★★★★ 【環境データ管理システム構築による廃棄物管理推進】
社会貢献	社会貢献自主プログラムの推進	子供向けものづくり・工学教室の開催	★★★★⇒★★★★ 【ものづくり+工学教室用ツールを開発、イベント実施】

※2013年度以降は取り組み項目の見直しも実施していきます。

## カンパニー別取り組み項目の進捗状況

2011年度はカンパニー・ビジネスセンター(事業部門)ごとに重点項目を設定して取り組みましたが、それ以外の項目についてもそれぞれ取り組んでいます。すべての項目について2011年度のはじめに実施したカンパニーごとの4段階の自己評価を年度末に再度行い、「目指す姿」への進捗を確認しました。

本社の推進部門の評価と、実施部門としてのカンパニーの評価が一致していないところもあり、今後の課題として擦り合わせを行っていきたく考えています。

また、2011年度の結果を踏まえ、2012年度の重点取り組み項目を選定しました。ここでは、一部の項目の評価と取り組み部門を紹介します。

★これから取り組みたい   ★★ある程度は取り組んでいる   ★★★かなり取り組んでいる   ★★★★十分だがさらに向上させていきたい

領域	取り組み項目	2011年3月⇒2012年3月 評価(平均)	2011年度 重点実施部門	2012年度 重点実施部門
全般	CSRの部門内理解促進と浸透	★☆☆★★	全カンパニー・ビジネスセンター	車両カンパニー モーターサイクル&エンジンカンパニー 精密機械カンパニー ロボットビジネスセンター
	顧客・取引先・パートナー・地域などの 意見や評価を聞き反映する仕組み	★★★★☆⇒★★★★☆	モーターサイクル&エンジンカンパニー	—
事業	新市場創造、新たな顧客価値の開発努力	★★★★⇒★★★★☆	—	モーターサイクル&エンジンカンパニー
	品質方針を明文化、方針に沿った品質保証活動	★★★★⇒★★★★	船舶海洋カンパニー 車両カンパニー	船舶海洋カンパニー 車両カンパニー
	顧客満足調査とその意見を反映した 顧客満足向上の取り組み	★★★★⇒★★★★☆	精密機械カンパニー	精密機械カンパニー
マネジメント	定期的・網羅的な内部監査と経営陣報告の 仕組みと運用	★★★★☆⇒★★★★☆	—	ガスタービンビジネスセンター 機械ビジネスセンター
	ミッションステートメントの周知徹底	★★★★⇒★★★★	—	航空宇宙カンパニー
	コンプライアンス・倫理研修の実施と実効評価	★★★★⇒★★★★☆	ガスタービンビジネスセンター 機械ビジネスセンター ロボットビジネスセンター	プラント・環境カンパニー ガスタービンビジネスセンター 機械ビジネスセンター ロボットビジネスセンター
	海外事業における現地法令遵守徹底	★★☆☆⇒★★★★	航空宇宙カンパニー	—
	危機管理全体の体制と運用の枠組み構築	★★★★⇒★★★★	プラント・環境カンパニー	プラント・環境カンパニー
	災害時の優先重要業務の決定と、 事業継続計画の作成、定期的な評価・見直し	★★☆☆⇒★★★★	船舶海洋カンパニー ガスタービンビジネスセンター 機械ビジネスセンター	船舶海洋カンパニー ガスタービンビジネスセンター 機械ビジネスセンター
	お取引先へのCSRマネジメントの要請と協働	★☆☆★★	モーターサイクル&エンジンカンパニー 精密機械カンパニー	精密機械カンパニー
環境	グループ全社・海外を含む環境情報の把握	★★☆☆⇒★★★★	ロボットビジネスセンター	ロボットビジネスセンター
	国内外の子会社を含めた事業部門ごとの 環境負荷低減への取り組み	★★★★⇒★★★★☆	—	モーターサイクル&エンジンカンパニー
社会貢献	社会貢献の自主プログラムの推進	★★⇒★★★	航空宇宙カンパニー プラント・環境カンパニー	航空宇宙カンパニー プラント・環境カンパニー
	地震・台風などの災害対策や 被災住民への支援方針	★★⇒★★★	車両カンパニー	車両カンパニー

※2013年度以降は取り組み項目の見直しも実施していきます。

# 東日本大震災から1年余が過ぎて —川崎重工グループの取り組み—

東日本大震災は企業にとって自らのあり方や使命を改めて考えさせる契機ともなりました。  
震災後1年余。川崎重工グループの各種の取り組みを報告します。

## 大規模地震に対する事業継続計画 (BCP) の見直し

事業継続計画(Business Continuity Plan=BCP)は経営戦略そのものです。「防災備品の準備」「避難訓練」等に代表される災害発生直後の危機対応だけでなく、どのようにして事業を継続し使命を果たしていくかを考えなければなりません。当社グループは1995年1月の阪神・淡路大震災での被

災を教訓として防災対策をまとめ、また2009年の新型インフルエンザの流行を機にBCPの整備を進めてきましたが、2011年3月の東日本大震災の発生を受け、大規模地震に対するBCPの見直しを実施しました。

### 1 全社基本方針 川崎重工グループの大規模地震発生時の対応方針を決定

川崎重工グループとして危機発生時の対応方針を明確にするため「全社基本方針」を定めています。人命優先は当然ですが、インフラ産業を担う企業として社会的責任を果たすことを改めて明文化しました。大規模地震発生時には、救援活動に用いられる機器(航空機、艦艇等)の運用支援、インフラ製品(鉄道車両、発電設備、ゴミ処理設備等)の早期復旧・維持整備および顧客・取引先支援などを行います。

- 全社基本方針**
- 従業員と家族の健康、生命を守る
  - 社会的責任を果たすため継続しなければならない業務の遂行
  - 当社グループの事業活動の正常化
  - 地域社会への責任と貢献

### 2 本社および各カンパニー重点項目 全社基本方針を受け、本社および各カンパニーにおいて被災時でも継続する機能を特定

全社基本方針に基づき、本社およびカンパニーでの重点項目を確認し、カンパニーごとに事業形態の違い、製品の特性なども考慮して「災害発生時においても継続しなければならない機能」を特定しました。

### 3 「被災時の対応」と「平時の準備」 災害発生直後の対応と平常時から準備しておくことを検討

首都直下型地震、東海・東南海・南海地震を想定し、「被災時の対応」と「平時の準備」を検討しました。あらゆる項目について、どの部署が何を担当するのか、そのためにはどのような準備をしておかなければならないのかなど、具体的な行動に落とし込んだ計画を作成し、この計画に沿って準備を進めています。

### 4 訓練と見直し 定期的に訓練を実施し、訓練結果を踏まえた見直しを行う

BCPの訓練と、訓練結果を踏まえたBCPの見直しを継続的に実施することとしています。

※BCPについてのさらに詳細な情報はWebに掲載しています。



2011年8月実施の東京本社現地対策本部要員を対象としたシミュレーション訓練

## 被災地の現場から —東北支社長メッセージ—

震災から1年が過ぎ、さらなる復興と発展に貢献してまいります

私どもは震災直後から、東北支社に駐在している者に限らず、関係者全員が、それぞれの立場で社会的責任を果たすべく全力で対応してまいりました。支社には震災当日の夜から被災インフラ設備に対する復旧対応の依頼があり、出社可能な数人とともに、翌朝から被災自治体の担当者と協議を開始し、適時復旧対応を行いました。また、地域貢献の一環として必要な機材を使っただくために多くの自治体他にヒアリングし、がれき処理に使用するホイールローダや破砕機、被災地を効率的に移動し物資輸送を行う二輪車、県民の目となる防災ヘリコプターを無償提供することができました。



東北支社長  
なかもら はやと  
中村 勇人

※被災地での復旧・復興支援については、Webに掲載しています。

## エネルギーの安定供給に関する取り組み

当社グループは東日本大震災でクローズアップされた問題のひとつである「エネルギーの安定供給」をさまざまな形で支えています。

### 震災時の非常用ガスタービン発電設備の活躍

震災とその後の余震で発生した停電・計画停電時の設備の稼働状況を調査したところ、稼働させた非常用ガスタービン発電設備1,035台中、1,034台が順調に給電していました。(稼働率:99.9%)  
未稼働の1台は定期整備をしていなかったものです。100%稼働を目指して、非常時でも本当に信頼できる給電体制を築いていきます。



信頼性の高い非常用ガスタービン発電設備

### ガスエンジン発電設備の増産

震災以降、電力需給逼迫を背景に、電力の安定供給を求める声が増しに高まっています。自家発電設備をはじめとした分散型電源への期待が高まる中、当社では環境を損なうことなく電力安定供給に貢献するため、世界最高の発電効率と環境性能を誇る「グリーンガスエンジン」の生産能力を月産4台に増強しました。



世界最高の発電効率49.5%のグリーンガスエンジン

### 電力会社への電力供給

原発停止に伴う電力供給不足への対応要請に応え、明石工場のガスタービン自家発電設備(当社製)の発電出力と発電量を増やし関西電力へ供給しました。

期間は2012年2月1日から3月31日の2ヵ月間、総電力量は約1,600万kWhです。これは一般家庭約2万7千世帯の使用量に相当します。今後も社会状況に合わせて可能な範囲で協力していく予定です。



明石工場ガスタービン発電設備

# 川崎重工グループ 第一回有識者ダイアログ

2011年12月28日、神戸市中央区にある神戸クリスタルタワー（川崎重工神戸本社）に、環境マネジメントやCSRに関する専門家、企業の実務担当の皆さんをお招きし、有識者ダイアログを開催しました。第一回となる今回は、「川崎重工の事業への期待」、「今後のCSR活動の進め方」についてご意見をお伺いし、出席した当社メンバーを含めて意見交換をしました。



## 開催概要

【日時】  
2011年12月28日

【場所】  
川崎重工神戸本社（神戸クリスタルタワー）

## 【社外参加者】

**水上 武彦 氏** (株)クリーン、ファシリテーター  
**磯辺 剛彦 氏** 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授 経営学博士  
**海野 みづえ 氏** (株)創コンサルティング 代表取締役  
**河崎 勝徳 氏** TOTO(株) ESG推進部

## 【川崎重工からの出席者】

**橋本 芳純** CSR推進本部 本部長・執行役員  
 CSR企画ワーキンググループメンバー  
 各カンパニーCSR委員会事務局担当

## カワサキワールドを見学

有識者ダイアログの開催に先立ち、有識者の皆さんに、神戸メリケンパークにある神戸海洋博物館内の「カワサキワールド」を見学していただき、川崎重工グループへの認識を深めていただきました。



## ブランド価値向上は次世代をターゲットに

「川崎重工の事業への期待」を考える前に、まず川崎重工のブランドイメージを確立し、高めることが大切だと思います。というのも、川崎重工について学生に聞くと、新幹線やオートバイは知っていても、それ以外の事業についてはあまり知りません。製品や技術の持つ顔、いわゆるブランドが見えにくいところがあり、それゆえに世の中から正当な評価を得ていないと感じます。ブランド価値を上げる方法として有効なのが、製品や技術の裏側にある物語を伝えることです。お客様や消費者にとって製品や技術、さらに企業のイメージ広告はほとんど意味をなさず、シンプルに伝わる物語こそが人の心に届くのではないのでしょうか。

「今後のCSR活動の進め方」について、大切なのは誰に対してメッセージを発信するかです。新幹線、飛行機など子供たちにとって憧れの対象である製品をつくっている企業として、次世代を担う子供たちをターゲットにしたCSRに注力していくべきだと思います。



慶應義塾大学大学院教授  
いそべ たけひこ  
**磯辺 剛彦 氏**

## グローバルなCSR活動の展開に期待

川崎重工の事業がB to B(企業間取引)のビジネス中心であっても、その先にはC、つまり消費者(消費者)やコミュニティ(地域社会)があります。特に、設備やインフラに関わる企業のお客はコミュニティとの接点が多く、ビジネスを展開する場合は地方自治体や行政府に向けたCSRを考えていく必要があります。

また、グローバルに事業展開をしていく場合、ダイバーシティ(性別や人種といった違いにこだわらずに人材を活用すること)や現地での採用など長い目で見た地域貢献に対する考え方が伝わらないと、現地に受け入れられにくくなります。国際的な社会的責任の手引きであるISO26000が出て、人権問題や労働問題などグローバルカンパニーとして解決していかなければならない課題もあります。そういうことを含めてグローバルブランドとしての川崎重工がコミュニティのためにいかに貢献できるかということを考えて活動してもらいたいと思います。



(株)創コンサルティング  
うんの  
**海野 みづえ 氏**

## 川崎重工らしさを発揮するCSR活動を

企業のCSR担当者として今後のCSR活動に共通の課題があると認識しています。川崎重工は、リスクマネジメント的なCSRにはかなり取り組んでおられ、体制と組織、実績などもきちんと評価した上で、これからの課題を踏まえてCSR活動を進めようとしておられます。次のステップとして、事業とCSR活動の戦略的な結びつけに注力されてはいかがでしょうか。

ISO26000の規格の中にはグローバルな社会課題が集約されています。その中で川崎重工が「らしさ」を発揮できるフィールドがどこなのかを読み解き、そこに注力することによって会社の独自性を発揮することができます。それが事業の価値向上につながっていくのではないのでしょうか。川崎重工はインフラに関わる企業であり、人々の生活のベースに密接につながっていることを考えると、川崎重工らしさを発揮するフィールドはいろいろあると思います。これからは守りから一歩攻めに転じたCSR活動が求められてきます。川崎重工におかれても、そうしたCSR活動を模索していくことが大切ではないかと考えます。



TOTO(株) ESG推進部  
かわさき かつのり  
**河崎 勝徳 氏**

## ファシリテーターからのコメント

### 課題を絞り、戦略的な視点で目標設定を

川崎重工では今、CSRマネジメントに関する85項目の課題が出されていますが、今後は本当に強化すべき点、やり抜かなければならない課題にフォーカスする必要があります。

また各カンパニーは自立性を持ってCSR活動をしています。現在のカンパニー目標は一般的なものとなっています。CSR教育などは全社の目標とし、カンパニーは特性に応じた独自の目標を設定していく。さらに言えば、事業を通じた社会価値の創造、戦略的CSRの視点を加えて目標を設定するのが、川崎重工のCSRの方向性として期待されます。

自の目標を設定していく。さらに言えば、事業を通じた社会価値の創造、戦略的CSRの視点を加えて目標を設定するのが、川崎重工のCSRの方向性として期待されます。



みずかみ たけひこ  
(株)クリーン  
**水上 武彦 氏**

## ご意見をいただいて 攻めのCSR、グローバル企業としてのCSR活動に向けて

私どもはCSRというものを、グループミッションである「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献するGlobal Kawasaki」をより高い次元で実現するものと位置付け活動を進めています。本日のダイアログを通じて、私どもにより期待されるものは、高度な製品やサービスを通じて社会の発展に貢献していくとともに、ステークホルダーの皆様へ新たな価値を提供していくことだと改めて認識することができました。そのためには、常に活動を見直して、社会からの要請や期待に沿ったものになっているのかを検証していかなければなりません。

そして、ステークホルダーの皆様との相互コミュニケーションを高めることによって活動を深化させることが重要です。

本日、有識者の皆様からいただいたご意見をもとに、攻めのCSRに取り組むこと、守りのCSRについても、グローバル企業として海外拠点を含むグループ全体に広げたいと思います。



CSR推進本部 本部長・執行役員  
はしもと よしなり  
**橋本 芳純**

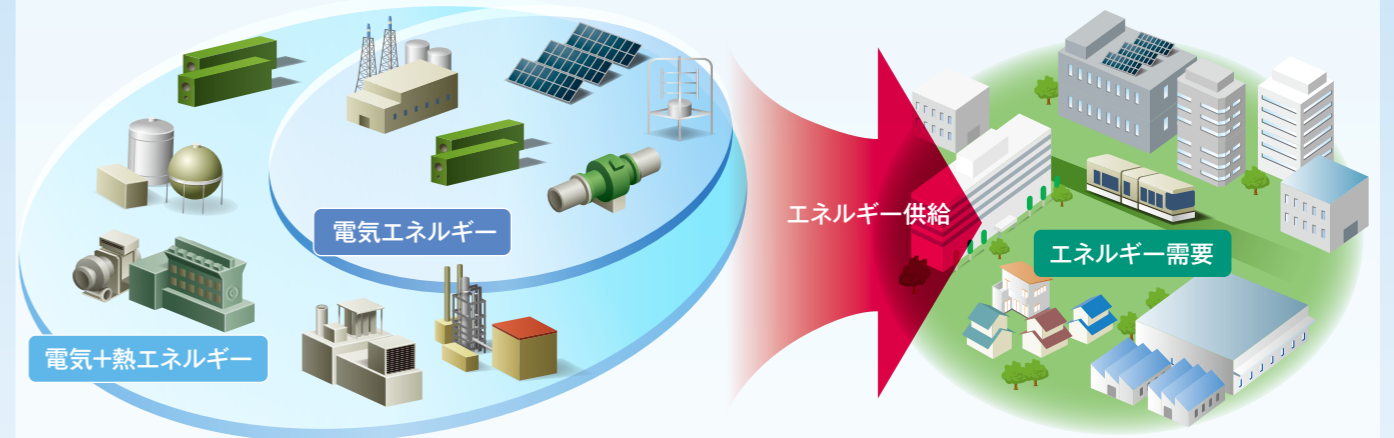
# 総合技術力で未来をひらく 価値を創り出します

## 川崎重工グループの目指す社会 ～エネルギー・環境分野では～

効率的なエネルギー、環境と資源を考えたエネルギー、信頼できるエネルギーのあり方。  
グローバルに社会基盤を担う企業として、エネルギー・環境の「いま」と「未来」を考え、新たな価値を提供し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。

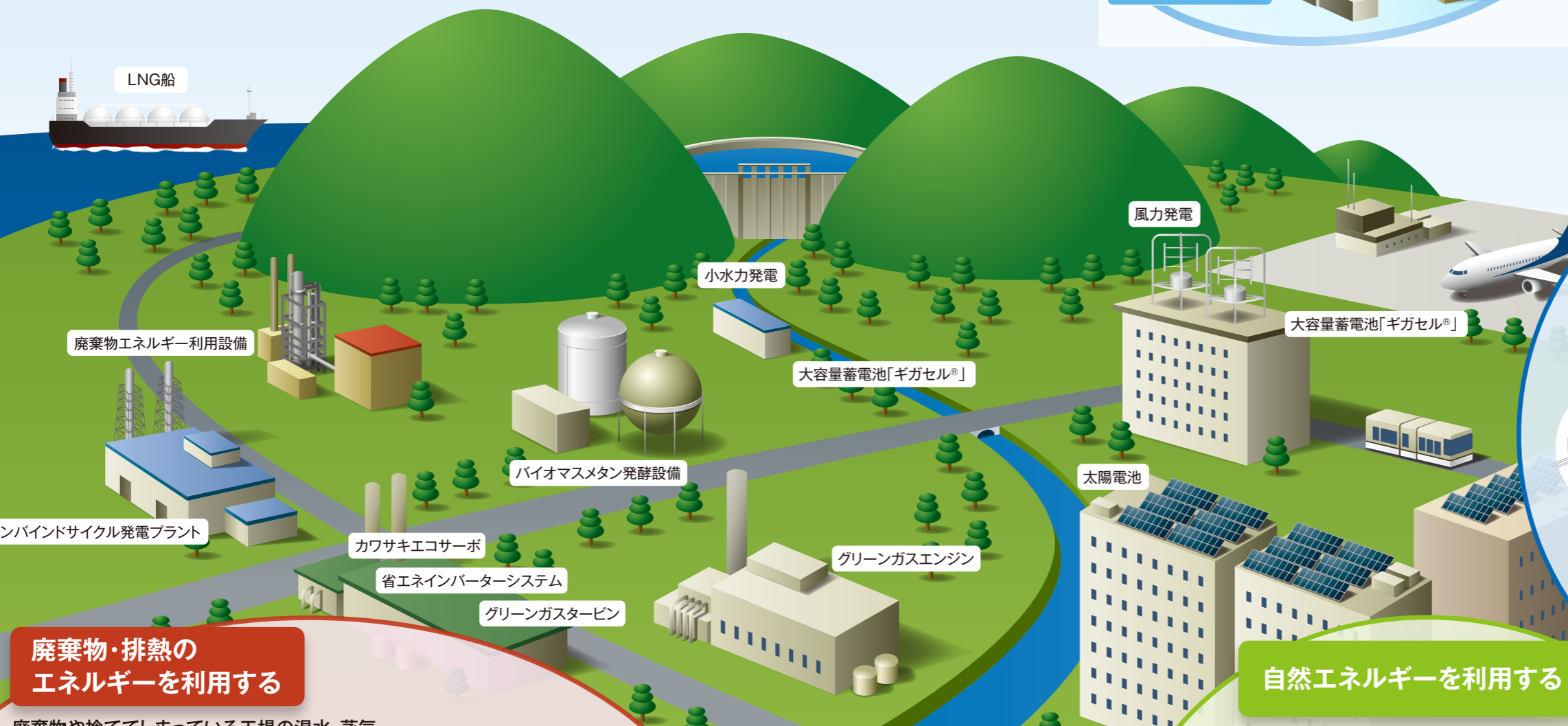
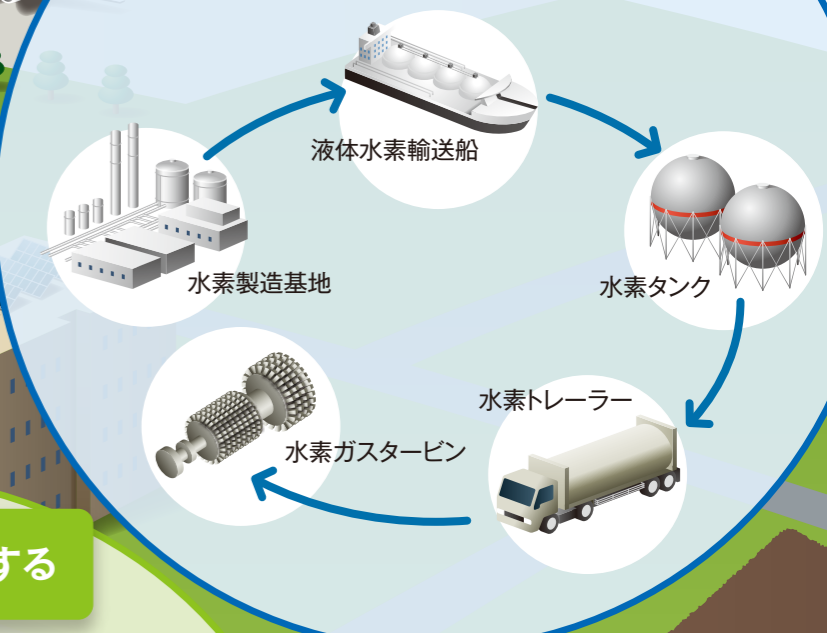
### 分散型エネルギーシステム

分散型のエネルギーシステムは効率が高く、また災害にも強いシステムで、安全・安心な街づくりに貢献します。



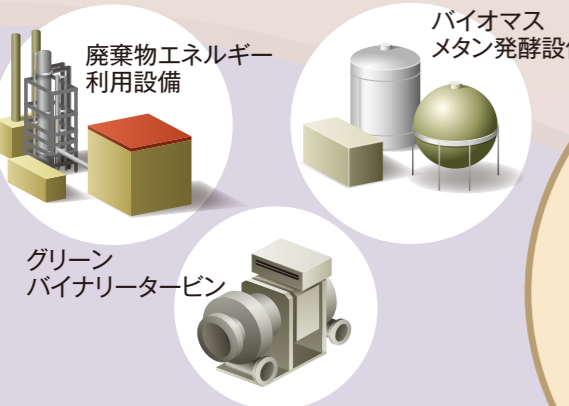
### 未来の理想のエネルギーを実現する

未来社会の新しいエネルギーシステムとして、「CO<sub>2</sub>フリー水素チェーン」を提案しています。



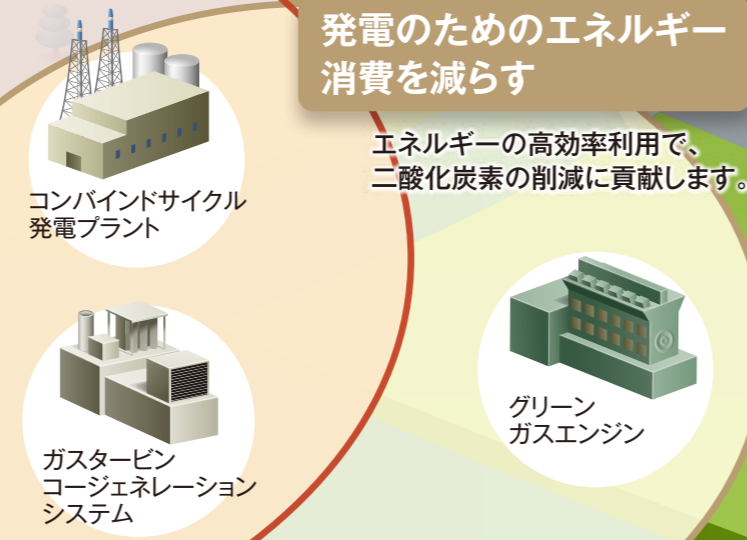
### 廃棄物・排熱のエネルギーを利用する

廃棄物や捨ててしまっている工場の温水・蒸気・排ガスなどを利用します。



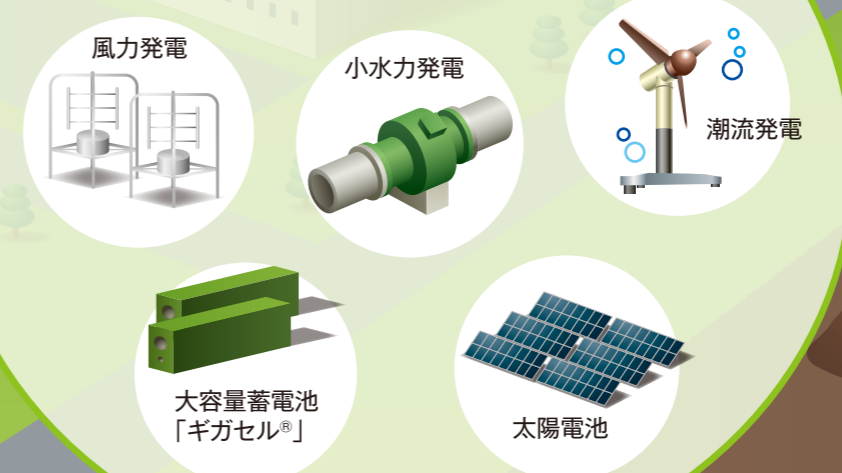
### 発電のためのエネルギー消費を減らす

エネルギーの高効率利用で、二酸化炭素の削減に貢献します。



### 自然エネルギーを利用する

太陽、風などの自然エネルギーで発電すると、二酸化炭素は発生しません。





# 総合技術力で未来をひらく 価値を創り出します

当社グループでは、製品品質の向上、製品安全の確保、お客様満足度の向上を目指して、地道な取り組みを続けています。今年度の報告書では、製品品質向上については船舶海洋カンパニー、製品安全の確保についてはプラント・環境カンパニー、お客様満足度向上については精密機械カンパニーの取り組みを紹介します。

## 製品品質向上への取り組み

船舶海洋カンパニー

当社発祥の事業部門である船舶海洋カンパニーは、これまでに千数百隻以上の船舶を引き渡してきました。船づくりではお客様と触れ合う機会も多く、お互いの顔が見える関係で進めている品質向上への取り組みを紹介します。

### ① 開発・契約

お客様のニーズを的確に把握し、打合せを重ねながら、船舶の仕様を決定します。



船舶の建造仕様書

### ② 設計

設計段階でもお客様と技術打合せを頻りに行い、図面の承認を得ることでご要望を確認しながら、技術上の規格に適合した信頼の設計を進めます。



設計作業の様子

### ③ 調達

百を超えるお取引先へ機器や部品を発注します。お取引先における主要な機器の出荷前検査では、お客様とともに立会い、要求仕様通りであるかを確認します。



主要な機器の出荷前検査

## お客様とともに

### ⑥ アフターサービス

引き渡し後のクレーム情報を確認し、補修や部品供給などお客様への技術サポートを迅速に実施します。ここで得られた貴重な情報は各部門へフィードバックし、品質向上に役立てます。



アフターサービスで訪問した船舶の乗組員さんたち

### ⑤ 海上性能試験・引き渡し

製造の最終段階では、船舶を実際に海へ出して性能をお客様とともに確認します。その後、工場の岸壁から船舶が世界の海へ旅立つのを見送り、引き渡しとなります。



旗を振って岸壁から見送り

### ④ 製造・検査

工場では鋼板加工、溶接、塗装、機器据付といった多様な工程を経て船舶が形になっていきます。お客様からは駐在監督が派遣され、各種検査を通じて監督さんとともに品質を確認していきます。



高所作業車を使った船舶の溶接検査

## 製品安全への取り組み

プラント・環境カンパニー

プラントの設計上の安全性を評価する手法のひとつにHAZOP (Hazard and Operability Studies、潜在危険・運転性評価手法)を用いた方法がありますが、肥料プラントのプロジェクトではこのHAZOPを実施することにより安全性を検証しています。

HAZOPは、関係者(客先、肥料製造技術の供与元、当社)が集まって、特に通常の運転条件(たとえば、流量、圧力、温度)から逸脱した運転を行ったと仮定した際の、

- ① 安全上の問題がある箇所の洗い出し、
  - ② そこで発生する危険事象とその原因の解析、
  - ③ 危険な状態や事故への発展を阻止するための防護機能と改善すべき対策の立案
- を行うことで、リスクを許容可能なレベルまで低減します。具体的には、
- 肥料合成機器の圧力上昇時におけるプラントを非常停止させる安全装置
  - コンプレッサ入口圧力低下時におけるコンプレッサを非常停止させる安全装置



プラント・環境カンパニー  
化学・低温貯槽プラント総括部  
化学プラント部 設計一課  
たかや ひろし  
高谷 啓史

● 運転員の手動弁誤操作によるタンク水位低下時におけるポンプの過度の圧力低下防止のための警報表示といったことが挙げられ、考えられる危険を事前に把握し、設計上安全が考慮されているか、改善すべき対策があるかということを検証しています。

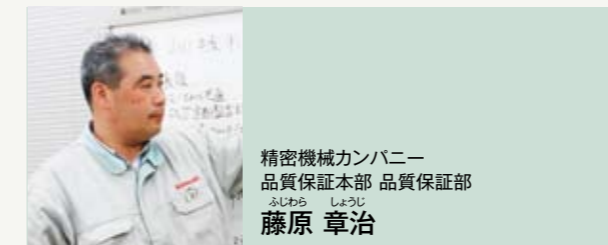
このようにHAZOPを通して、安全設計に対する意識を高めるとともに、実際のプラントの設計に反映してリスクを低減する取り組みを行っています。



Fatima Fertilizer Company Ltd. 殿  
(パキスタン) 向け肥料プラント

## お客様満足度向上への取り組み

精密機械カンパニー西神戸工場



精密機械カンパニー  
品質保証本部 品質保証部  
ふじわら しよじろ  
藤原 章治

精密機械カンパニーは、さまざまな機械のモーションコントロールを担う油圧機器、油圧ユニットを生産し、世界のあらゆる国々へ製品を提供しています。中でも油圧ショベルをはじめとする建設機械用油圧機器においては高いシェアを誇り、お客様から高い評価を得ています。

また、お客様からのさまざまなニーズに対して、私たちは製品の設計段階から、きめ細やかに対応し製品を提供することで、お客様から高い信頼を得ています。



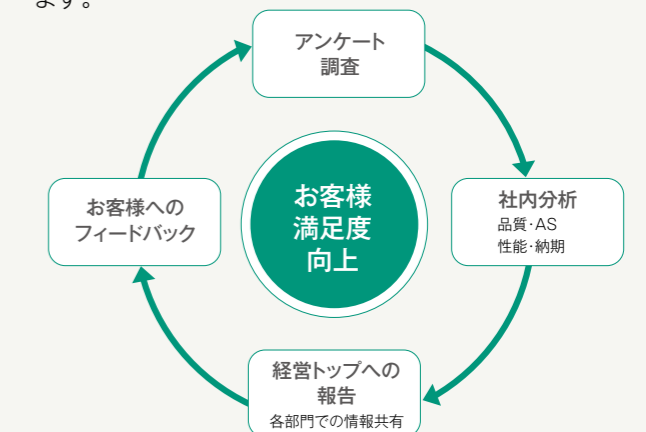
アフターサービス担当者を対象とした研修



油圧機器のオーバーホール

さらに、AS面(アフターサービス)においては、日本をはじめ、イギリス、アメリカ、中国、韓国にそれぞれ拠点を設けて、迅速に対応することにより、お客様のさまざまなご要望に対して、ご満足いただけるよう活動を充実させています。

お客様からいただいたアンケートの結果は、品質・AS(アフターサービス)・性能・納期ごとに分類し、経営トップをはじめ、各部門が情報を共有するとともに、その結果を真摯に受け止め、全従業員が一丸となって誠実に対応し、お客様の満足度が向上するよう日々努力をしています。



# 社会の信頼に応えるため、いつも誠実に行動します

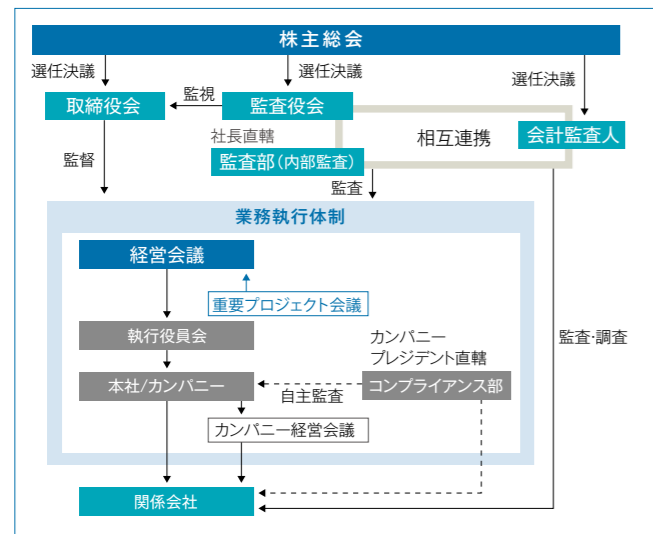
テーマ2「マネジメント」のより詳細な情報についてはWebに掲載しています。

## 企業統治の体制

当社は、取締役会のほか、代表取締役等関係者で構成する経営会議および執行役員を加えた執行役員会を設置しています。取締役については、業務執行から独立した取締役を置いているほか、取締役の報酬に業績を反映させてインセンティブとする一方で、任期を1年とし、経営責任の明確化を図っています。

また、当社は監査役設置型を採用し、監査役会および会計監査人を設置しています。監査役のうち2名は当社との取引関係等の利害関係のない社外監査役（うち1名は東京証券取引所の定める独立役員）となっています。

川崎重工のガバナンス体制



## 監査の体制と状況

内部監査については、社長直轄の監査部が、当社グループすべての事業体の経営諸活動を対象に監査を行っています。監査役は、取締役会および経営会議等に出席するとともに、重要書類の閲覧や、代表取締役との定期的会合、社内各部門および子会社の監査を通じて業務および財産の状況の調査等を行っています。会計監査については、当社の会計監査人である、有限責任あずさ監査法人の財務諸表監査を受けています。

## コンプライアンス

### コンプライアンスの意識啓発

当社では、2011年度の全社共通コンプライアンス活動として、「実例に学ぶ各職場でのコンプライアンスの再確認」を実施しました。

新聞社の許諾を得て、企業のさまざまなコンプライアンス違反を報道する新聞記事を利用した独自の教育用資料を作成し、それを基に、各職場で上司が職場の皆さんに説明を行い、コンプライアンスの重要性を再確認する活動を実施しました。

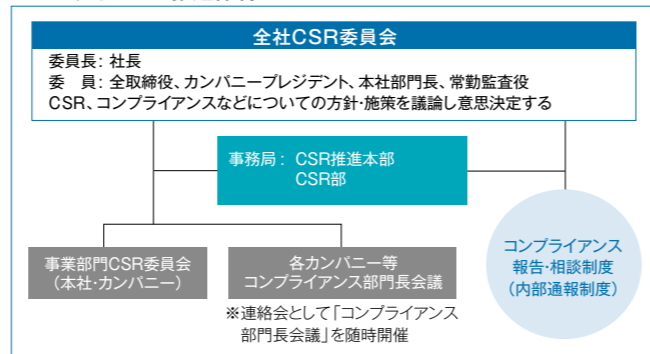
また、上記活動をはじめとする各種のコンプライアンス意識啓発の取り組みの成果を確認するため、2012年2月、日本国内の当社グループの全従業員・派遣社員を対象に、コンプライアンス意識調査を実施しました。

### コンプライアンス報告・相談制度

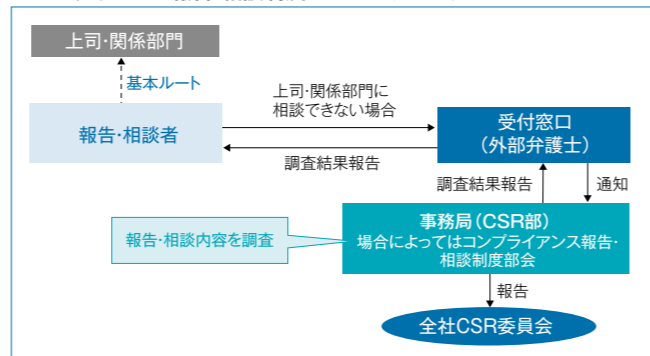
従業員が、所属する部門でコンプライアンス違反の疑いがあることに気付いても、上司や関係部門に報告あるいは相談しづらいとすのために、外部弁護士を窓口とする「コンプライアンス報告・相談制度」を設けています。

2011年度は18件の報告・相談がありました。

### コンプライアンス推進体制



### コンプライアンス報告・相談制度のフローチャート



## TOPICS

### 米国におけるコンプライアンス教育の一例

米国における建設機械（ホイールローダ）の製造拠点であるKCMA Corporation（従業員約120名）では、企業倫理・コンプライアンスについて説明した行動規範を作成しており、全従業員が、行動規範を遵守することに同意し、署名しています。

また、3カ月に1回開催する全従業員参加のカンパニーミーティングの際に、人事総務部長が企業倫理・コンプライアンスの重要性について言及し、注意を喚起しています。

このようにして、KCMAでは従業員の企業倫理・コンプライアンスの意識を高める継続的な努力をしています。



KCMA カンパニーミーティング風景

## 危機管理

当社グループでは、リスクが顕在化した場合に備え、社則「危機管理規則」を定め、危機発生時には対策本部を立ち上げ迅速に対応する体制を構築しています。

また、危機発生に備え、グループ全体を組織横断的に統合する危機管理体制として危機管理対策機構を設けています。

### 事故・災害発生時の社内報告経路

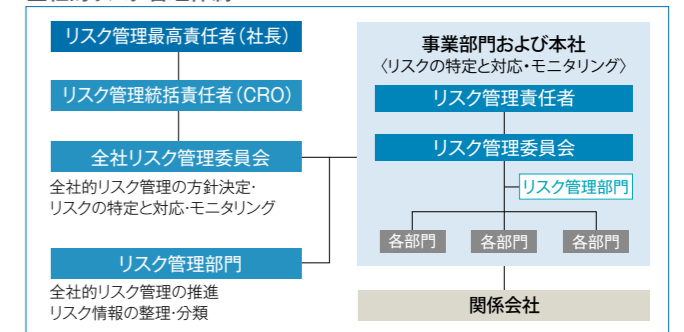
事故や災害の発生に備え、当社グループでは緊急事態発生時の報告ルートを定め、平時の危機管理体制である危機管理対策機構を通じ社内に周知しています。

## リスク管理

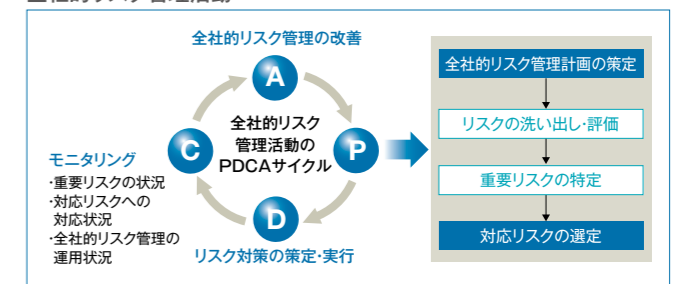
「全社リスク管理体制」のもと、リスクの洗い出し・評価、重要リスクの特定・対応すべきリスクの選定、リスク対策の策定・実行、モニタリングといった一連の「全社リスク管理活動」を実施して、経営に重大な影響を及ぼす重要なリスクを毎年共通尺度で特定し、全社視点で合理的かつ最適な方法で管理しています。

また、2011年からは国内関係会社への展開を開始し、2013年度中に、海外関係会社を含むグループ全体を網羅した「全社リスク管理体制」を構築することとしています。

### 全社リスク管理体制



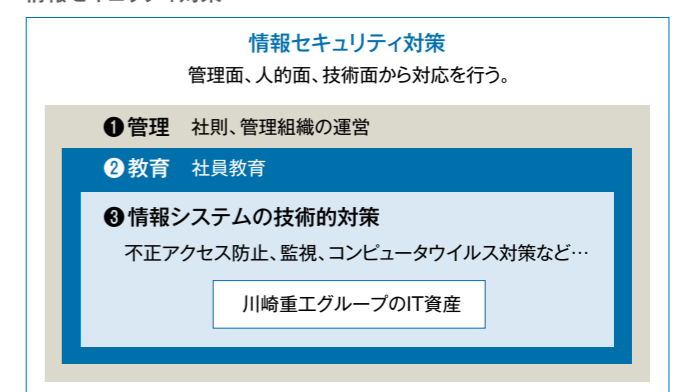
### 全社リスク管理活動



## 情報セキュリティ管理

当社グループは一般消費者／公共／防衛関係といった幅広い分野で製品を提供しており、それぞれの分野の要請に応じたさまざまな情報セキュリティ対策を体系的に進めています。

### 情報セキュリティ対策



## 社会の信頼に応えるため、いつも誠実に行動します

### 株主・投資家との関わり

#### 株主総会

当社は、「株主総会」を株主の皆様と当社経営陣との間でコミュニケーションを行う重要な「場」と考えています。

株主の皆様が株主総会の決議事項について十分にご検討いただけるよう、法定の期限よりも早く招集通知をお送りするとともに、英文での招集通知も作成し、当社Webサイトに掲載しています。

さらに、総会会場に出席することが困難な株主の皆様に対しては、インターネットや携帯電話を利用して議決権を行使できるようにしています。



株主総会

#### IR活動

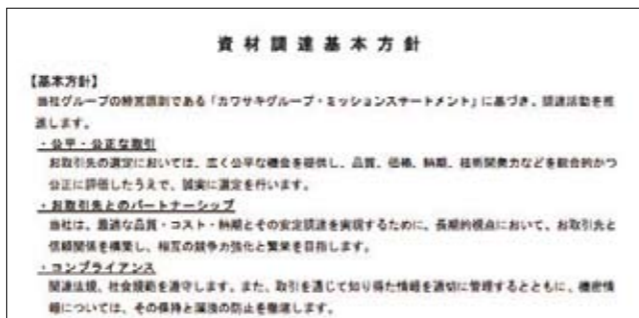
当社は、国内外におけるさまざまなIR活動を通じて、株主・投資家の皆様と積極的にコミュニケーションを図っています。機関投資家・アナリスト向け決算説明会、海外機関投資家訪問を実施しているほか、経営概況などを分かりやすくまとめた株主様向け冊子の発行、当社WebサイトのIR情報の充実にも取り組んでいます。

### お取引先との関わり

#### 公平・公正な取引と信頼関係の構築

当社は、「資材調達基本方針」および「資材取引先との取引における行動指針」に則り、お取引先との取引に携わる設計・製造部門なども含めた関係者すべてが、お取引先との長期的な信頼関係に基づく調達活動を行っています。

なお、本方針および本指針は、Webサイトに開示するとともに各部門に掲示することで、関係者すべてに周知徹底を図っています。



資材調達基本方針 &lt;抜粋&gt;

#### CSR調達

CSRの要請および顧客の信頼に対応する観点から、当社は2012年4月に「CSR調達ガイドライン」を制定し、当社Webサイトに開示しました。

資材調達基本方針および本ガイドラインに基づき、当社はお取引先のご協力をいただきながら、コンプライアンスをはじめとし、人権・労働・安全衛生や地球環境への配慮など、CSRの考え方に沿った調達活動を推進していきます。



CSR調達ガイドライン

#### コンプライアンスの徹底

「下請法(下請代金支払遅延等防止法)」や「建設業法」など調達関連法規の遵守のため、グループの調達部門等を対象とした集合研修を毎年実施しています。

特に、下請法については、次の通り、積極的な取り組みを継続しています。

- 設計・製造部門を対象とした研修を各工場および関係会社で実施(2011年度:計16回、769名の参加)
- 各業務において注意すべき事例を取り上げた「下請法違反事例集」を配付
- 「下請法自主監査チェックリスト」を作成し、2012年度内に社内Webサイトに掲載して、調達・設計・製造以外の部門にも幅広く啓発する予定

## ずっと働きたい職場をみんなで作ります

### 「人財」の育成

当社では、ミッションステートメントに基づいて設定した6つの人財像【①グローバルに活躍できる人財、②社会や顧客の課題を解決できる人財、③変革・革新を担うことのできる人財、④技術を高度化できる人財、⑤総合力を発揮できる人財、⑥常に収益の視点を持つ人財】の実現を目指し、従業員の一貫した育成・強化を図っています。

#### ①マネジメント力・業務遂行力の強化

##### (事務・技術職の育成)

事務・技術職は、入社から3年目までの新人期に、指導員制度に基づく体系的なOJT(On the Job Training)と各種研修を組み合わせて、若手担当者の早期育成を図っています。

また、役職者には課長研修・部長研修・理事研修といった研修を行うなどして、ミドルマネジメントの強化と経営候補者の養成に取り組んでいます。



部長研修(ダイバーシティ)

#### TOPICS

##### 従業員意識調査の実施結果について

当社は、隔年で従業員意識調査を実施し、諸施策の検討に活用しています。2011年の2・3月に実施した調査(回答者数14,526人)では、「川崎重工業の一員であることへの誇り」や「仕事のやりがい環境」など、ほとんどの設問で前回より肯定的な回答が増えているという結果が得られました。

一方で、福利厚生関係の設問や「育児・介護関連制度の利用しやすい環境」など、相対的に肯定的な回答が少ない項目もありましたので、現状を真摯に受け止め、各種施策に展開していきます。

#### ②現場力の向上(生産職の育成)

生産職は、若手に向けた「技能資格の早期取得奨励制度」や、高度な専門技能を持つ熟練生産職を「範師」と認定し、その技能を計画的に後進に伝えていく「範師制度」を新たに設け、生産現場における技能の伝承と向上に取り組んでいます。

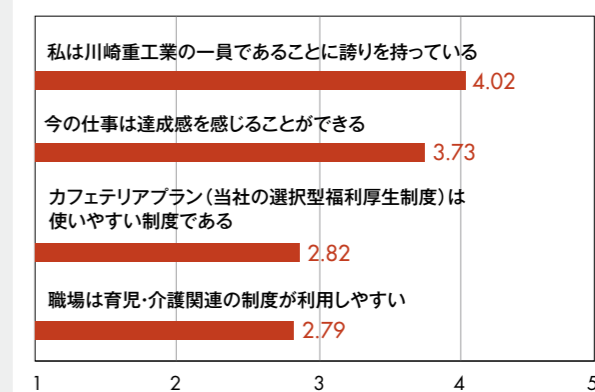
また、技能グランプリなどの社外の技能競技会にも積極的に参加しており、2011年の技能グランプリでは、機械組立職種で第3位、普通旋盤職種で敢闘賞に入賞しました。

### 活力ある職場風土の実現

#### 年次有給休暇の取得促進

当社は、従業員が心身のリフレッシュを図り、仕事とプライベートのメリハリをつけることを目指し、年次有給休暇の取得を促進しています。その方法のひとつとして、従業員が年度初めに連休取得日を設定し、必ずその日に連休を取得する制度である「ゆうゆう連休」を導入しています。また、2010年4月から年次有給休暇の付与日数を21日から22日に増やすなど、休暇を取得しやすい環境づくりを進めています。

※下の表は、全59の設問項目のうち、特徴的な結果が出ている項目を抜粋して掲載したものです。数値は、回答者が1~5の選択肢から回答した結果の平均値です。数値が高い程肯定的な評価であり、満足度が高くなっています。



## 多様性(ダイバーシティ)の尊重

### 女性の活躍促進

当社では、女性の採用に積極的に取り組んでいます。女性の採用人数・役職者数は年々増加しており、特に採用面では、大卒事務系の採用人員の約3割が女性となっています。今後は若手女性社員に対する目標・参考となる女性先輩社員の紹介や、所属長への女性部下育成のための支援などに取り組んでいきます。

### 障がい者の活躍促進

障がい者の雇用拡大にも努めており、さまざまな職場で障がいを持つ方が活躍しています。2010年には初めての試みとして、手話通訳をつけた社内研修を実施し、聴覚に障がいを持つ従業員の研修受講機会の拡大を図るなど、バリアフリー化にも積極的に取り組んでいます。

### 「ワークライフバランス」を支援

当社では、従業員が仕事と子育てを両立させながら、いきいきと働き続けることができるように、さまざまな次世代育成・両立支援を行っています。

特に、育児休業制度などは法令を上回る制度内容としているほか、育児休業者の職場復帰を支援するプログラムを導入するなどしており、兵庫労働局長から子育てサポート企業として認定を受けています。さらに、2011年4月からは、結婚・出産・育児等による退職者が、再度働ける状況になった際に、会社に再雇用希望の申し出を行うことができる制度や、育児・看護等で必要なときに時間単位で休暇をとれる制度を新たに設けました。

なお、こうした取り組みは育児のみならず介護を必要とする家族を持つ従業員に対しても同様であり、仕事と介護を両立できるよう、各種制度でサポートしています。

## 人権の尊重

### ハラスメントの防止、人権啓発

当社は、ハラスメントのない働きやすい職場環境の構築に向け、研修を通じて指導・啓発を行っています。

セクシュアル・ハラスメントについては各事業所に相談窓口を設けているほか、相談専用のメールアドレスを設け、メールでの相談を受けつけています。

人権啓発についても、新入社員研修や各種階層別研修の場を活用して、人権意識の高揚を図っています。

## 安心して働くことができる 安全な職場の構築

### 労働災害防止への取り組み

#### ①KSKY\*運動の継続実施

当社では2002年よりKSKY運動を継続実施しています。安全の基本ルール遵守による規律ある職場づくり(K)、作業の切れ目、勘どころにおける指差呼称の徹底(S)、そして危険予知能力のさらなる向上を図り(KY)、従業員一人ひとりの意識を高めるとともに、「相互注意」が行える職場づくりを目指しています。

\* K:基本ルール、S:指差呼称、KY:危険予知

#### ②危険体感教育の充実

当社では、疑似体験を通じて職場に存在する危険を体感させることで安全意識の向上を図っています。さらに、より効果的な体感教育とするために体感器材や設備の充実にも努めています。



危険体感教育



セクハラ防止の啓発文書

### 健康指導とメンタルヘルスケアへの取り組み

#### ①各種健康教室の開催

新入社員や定期健康診断結果で生活習慣病の所見があった従業員などを対象に「若年層食生活改善教室」、「高血糖改善教室」などの健康教室を開催するなど、健康管理の推進を図っています。



健康教室

#### ②メンタルヘルスケア

定期健康診断時に従業員の日頃のストレス度をチェックし、ストレス度の高い従業員には、産業医による問診と個別指導を実施しています。さらに、管理監督者向けの集合教育、eラーニングによるラインケア教育ならびにセルフケア教育などを実施しています。

#### ③疲労蓄積度自己診断チェックの実施

長時間勤務者を対象に「疲労蓄積度自己診断チェック」を義務付けています。疲労蓄積度が高い従業員には産業医による問診と個別指導を実施しています。

## TOPICS

### KMI(インドネシア)における従業員配慮

PT. Kawasaki Motor Indonesia (KMI)はインドネシアにおけるモーターサイクルの製造・販売拠点です。

インドネシアの人口の約90%はイスラム教徒であり、KMI従業員の多くもイスラム教徒です。そのためKMIでも彼らにさまざまな配慮をしています。

会社はイスラム教徒のために工場内にムシヨラという礼拝場所を設けています。女性従業員は勤務時間中にスカーフを着用することが認められています。食堂では、イスラムの教義で禁じられている豚肉の料理は提供されません。

イスラム教徒には日の出から日の入りまで断食する月(ラマダン)がありますが、この期間中、KMIは管理部門、営業部門の就業時間を30分早めています。それは多くのイスラム教徒がラマダン中は家で家族と一緒に夕食をとりたくて希望するためです。また、ラマダンに続くレバラン(断食を成し遂げたことを祝う休暇)の後、KMIではハラルビハラルという行事をイスラム教徒のために開催しています。

しかしインドネシアはイスラム教を国教としているわけではありません。憲法で信教の自由を保障し、キリスト教徒やヒन्दゥー教徒のため、クリスマスやヒन्दゥー教の

祝日も国民の休日になっています。KMIでもそうした少数派であるキリスト教徒にも配慮し、クリスマスにはセレモニーを開催しています。

このようにKMIでは当地の宗教や文化、習慣に配慮し、従業員の人権を尊重した事業の運営を図っています。



工場内の礼拝所(ムシヨラ)



スカーフを着用した女性従業員



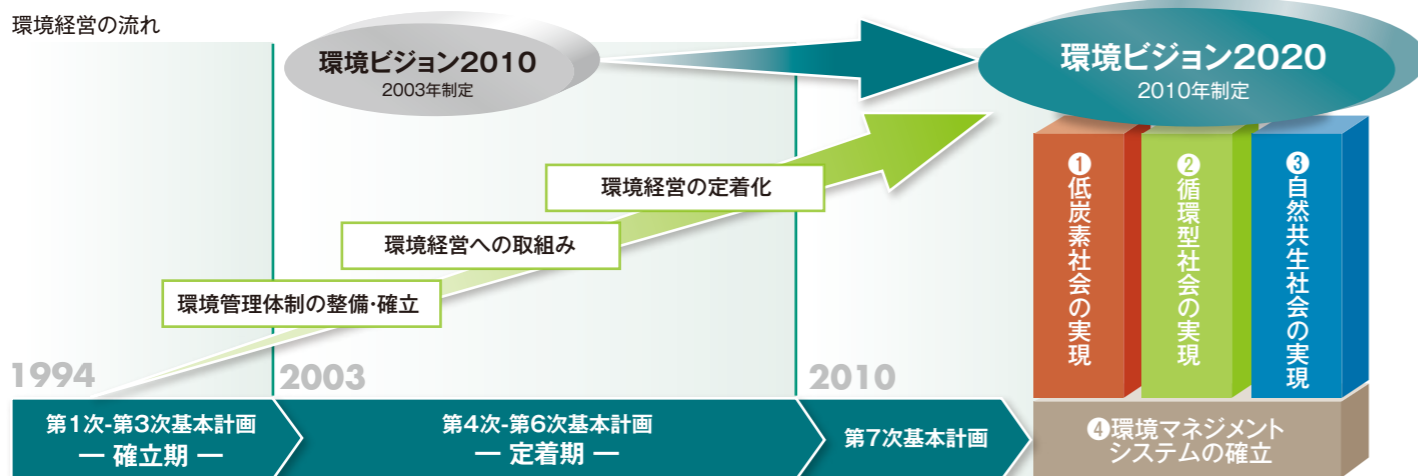
ハラルビハラル

# 「地球が微笑むものづくり」を 追い求めます

## 環境経営の考え方

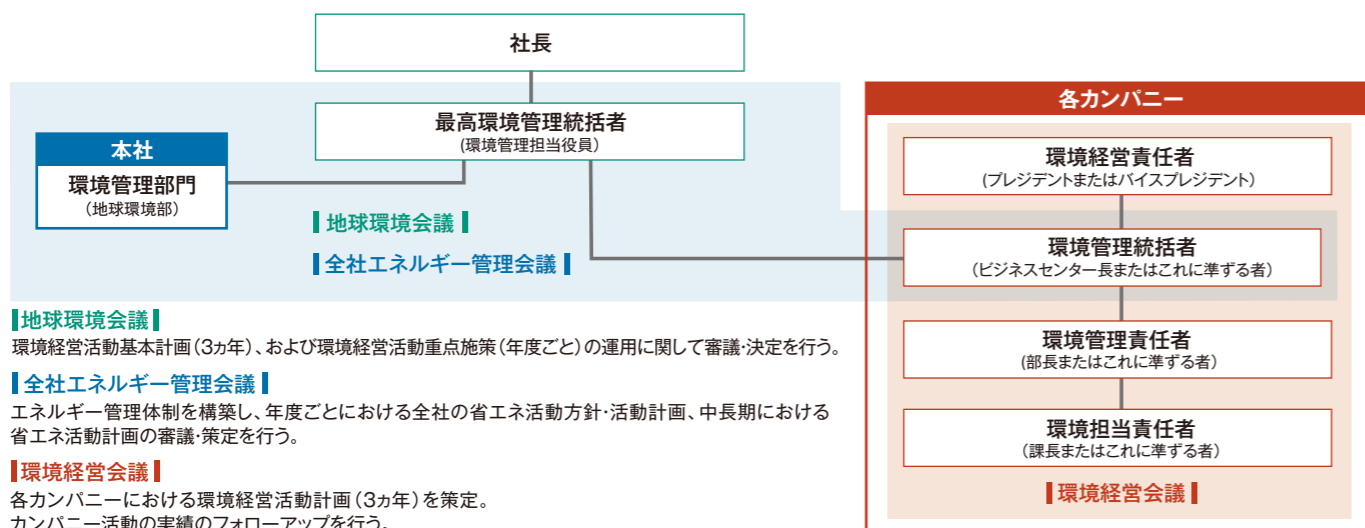
川崎重工グループの2020年のあるべき姿を目指して「環境ビジョン2020」を制定しました。また、ビジョン実現を目指して3か年ごとに定める「環境経営活動基本計画」では、①低炭素社会の実現、②循環型社会の実現、③自然共生社会の実現、④環境マネジメントシステムの確立を基本方針とし、2010年度から2012年度の第7次環境経営活動基本計画では以下の内容を重点的に推進していきます。

基本方針	第7次基本計画
① 低炭素社会の実現	CO <sub>2</sub> 削減とエネルギーコスト削減
② 循環型社会の実現	廃棄物削減
③ 自然共生社会の実現	有害な化学物質の削減
④ 環境マネジメントシステムの確立	国内外事業所の環境マネジメントシステムの構築



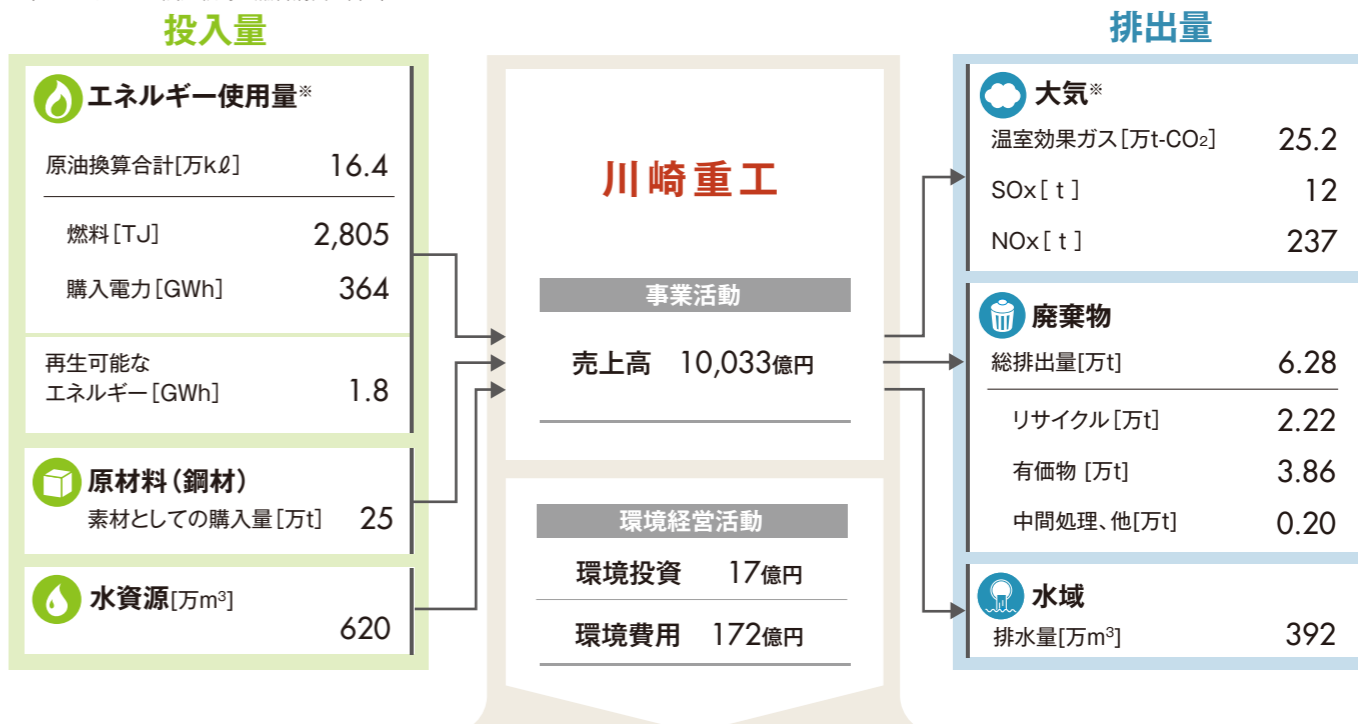
## 環境経営組織

当社は地球環境会議にて最高環境管理統括者を議長とし、重要事項の運用に関して審議・決定しています。また、策定された環境経営活動基本計画をそれぞれの事業部門が活動に展開できるよう、各カンパニーの組織に対応して、環境経営責任者、環境管理統括者、環境管理責任者、環境担当責任者を選任し、環境経営を推進できる組織体制を確立しています。



## 事業活動による環境負荷および製品を通じた環境貢献

2011年度の当社の生産活動に使われた資源の投入量と排出量は以下の通りとなります。  
（※ ガスタービン試運転時の燃料消費を含む）



## 製品を通じた環境貢献

当社は、製品の効率・省資源・環境負荷低減等で環境にやさしい製品を提供しています。

※製品を通じた環境貢献については、Webで報告しています。



「地球が微笑むものづくり」を  
追い求めます

工作機械の待機電力カット、圧縮空気のエア漏れ防止、不要照明の消灯などをすべての職場で実施することで使用するエネルギーの無駄を省いています。

当社で初めて、旧野田工場の114台のPCB混入コンデンサの処理が行われました。今後も廃棄物の適正処理に努めていきます。

使用済で廃棄する「ジェットスキー®」も、FRP船リサイクルシステムにより、広域認定制度を使って収集運搬され、解体・処理の上、再資源化されています。

工場ではさまざまな産業廃棄物が発生しますが、リサイクルしやすいように細かく分類し、マテリアルリサイクルやサーマルリサイクルされています。

国内主要工場の11カ所に太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーの利用を推進しています。  
2011年度発電実績:1.8GWh



CO<sub>2</sub>・エネルギー削減



廃棄物の適正処理



3Rの推進



分別収集

自社製品のガスタービンやガスエンジン発電設備等を国内工場に導入し、電気と熱のエネルギーを無駄なく利用するコージェネレーションシステムを導入しています。  
2011年度発電実績:120GWh



再生可能エネルギー活用



自家発電

低炭素社会の実現

循環型社会の実現



エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献

資源を無駄なく利用する製品とものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる

地球環境に調和した製品とものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献

環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり

自然共生社会の実現

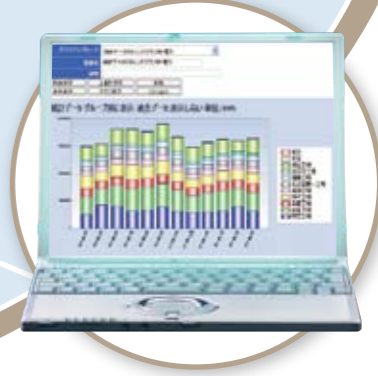
環境マネジメントシステムの確立

化学物質情報管理

環境データ管理



外部講師を招いて、REACH規則等への対応を中心に、化学物質情報管理について全社で勉強会を開催しました。



各事業所からの環境データをデータセンターに集約する環境経営情報管理システム「ECOKEEP」を構築し、環境データの集約・即時出力が可能になりました。

森林保全活動

環境との共生



地域社会との共生・生物多様性保全を目的に2008年12月から兵庫県の「企業の森づくり」事業に参画しています。



自然採光、太陽光発電、風力発電、屋上緑化、高性能ペアガラスなどを採用し、環境に配慮した神戸工場新館が完成しました。

環境教育



当社グループ従業員の環境意識の維持・向上のため、環境eラーニングを新入社員に対して実施しています。

環境経営



2011  
DBJ 環境格付  
当社は2011年12月、日本政策投資銀行 (DBJ) より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価されました。

日本政策投資銀行より優遇金利による融資を受けました。当社の環境経営が評価され、最高ランクの格付を取得した結果です。

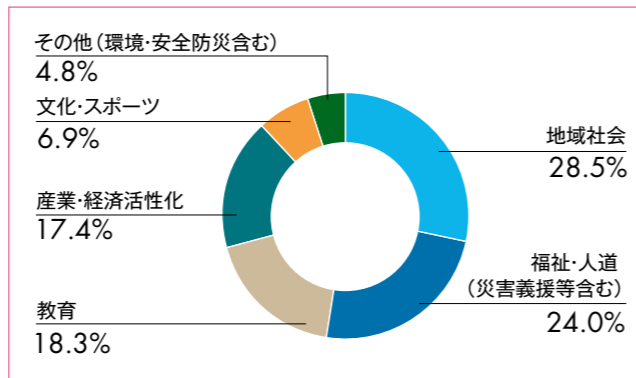
# 社会と未来につながる 貢献の輪を広げます

## 社会貢献活動状況(2011年度)

川崎重工グループは、各種寄付金・災害義援金のほか、自主プログラムとして、企業ミュージアム「カワサキワールド」の運営と、主に子供を対象とした各種のイベント開催、文化・スポーツへの協賛、地域経済振興への協力、企業の森づくり活動などを行っています。

2011年度は、前年度に引き続いて東日本大震災被災地への支援を継続したほか、初開催となった「神戸マラソン2011」ゼッケンスポンサーへの協賛、小学生向けの科学イベントへの参加など、新たな分野にも積極的に活動を進めました。

2011年度社会貢献支出状況



## 世界の子供へポリオワクチンを! —エコキャップ運動でCO<sub>2</sub>削減—



当社は、「エコキャップ運動」に参加しています。この運動はペットボトルのキャップを分別回収し、再資源化業者へ売却することによりCO<sub>2</sub>の発生を抑制し(キャップ400個で3.15kgのCO<sub>2</sub>が発生)、その売却した利益で世界の子供たちにワクチンを届けるというものです(ポリオワクチン一人分はキャップ800個)。

この活動を知り、これなら会社で協力できるかも!と提案しました。まずは地球環境部内で2009年から集めはじめました。

この活動の趣旨が社内に浸透するにつれて参加者が増え、自宅から袋いっぱいキャップを持ってきてくれる方もいます。皆様の協力を得て、神戸本社、神戸工場などで累計約40万個をエコキャップ推進協会に送付しました。これは、CO<sub>2</sub>削減:3,133kg、ワクチン497人分に相当する量です。

今後もCO<sub>2</sub>を削減するとともに、世界の子供たちにワクチンを届けられるよう回収運動を継続していく予定です。



回収したキャップ

## タイ洪水被災者支援(KMT)

2011年後半、タイは大規模な洪水に見舞われました。タイにおけるモーターサイクルの製造・販売拠点であるKawasaki Motors Enterprise (Thailand) Co., Ltd. (KMT)は、洪水による直接的な損害を被ることはありませんでしたが、当社グループは、タイ国内の洪水被害に対し、タイ赤十字社に400万パーツ(約1,000万円)、タイ投資委員会に400万パーツ(約1,000万円)寄付したほか、支援物資として当社製多用途四輪車MULEを10台寄贈するなど、総額3,000万円相当の支援を行いました。

また、カワサキのモーターサイクルのユーザー有志(延べ40名)が、モーターサイクルの機動性を活かして、ボランティアで被災住民の支援活動を展開しました。

KMTは、スペアパーツ・オイル・ガソリン等を無償提供するとともに、整備スタッフ3名を現場に派遣し、冠水地域を走るボランティアライダーをサポートしました。

一方、被災されたお客様に対しても、被災したモーターサイクルの無償修理やスペアパーツの割引販売を実施しました。



ボランティアライダーの皆さん

## 「神戸マラソン2011」ゼッケンスポンサー

2011年11月20日に神戸で初開催となった「神戸マラソン2011」で、男子ゼッケンスポンサーとして協賛しました。また、社内の有志86名が給水ボランティアとして、ランナーたちを沿道から支援しました。



給水ボランティア

### ボランティアで参加しました

レース参加の抽選で外れてしまったのですが、川崎重工の団体ボランティアを募集していることを知り参加しました。裏方に初めて参加してみて、現役選手時代には知らなかったボランティアの大変さと声援の楽しさを感じました。



川崎石工エンジニアリング  
ふなと きしげ  
船戸 基成

## 宮城県で里山整備活動をスタート!

—自然共生社会の実現へ—

当社グループは、地域社会との共生を目指して森林の保全整備にも取り組んでいます。2007年から高知県、2008年から兵庫県で従業員参加の森づくり活動を実施しており、2011年は国内3番目の活動地として宮城県で里山整備活動を開始しました。

2011年9月、仙台地区の当社グループ従業員が森林ボランティア団体「みやぎ里山整備クラブ」とともに、仙台市近郊で下草刈り、枝打ち、間伐を行いました。同クラブのメンバーから森林保全の意義や整備要領の説明を受けて作業を進めると、薄暗かった林が明るくなり、森林の再生に貢献したことが体感できる活動になりました。

宮城県での森林整備は、震災被災地区での地域貢献活動として、今後も継続して実施していきます。



里山整備活動

## 「マイヘリコプターをつくろう!」

—Kansai Science Yardに参加—

春分の日の暖かい日差しの中、(株)リバネス主催の、関西地域の小学生を対象にした科学技術体験イベント「Kansai Science Yard」に、「マイヘリコプターをつくろう!」というバルサ材で模型ヘリをつくる企画で参加しました。

実際にヘリコプター本体とローターを組み立てながら、ローターの「揚力(浮き上がらせる力)」を測定したり、ヘリコプター本体の回転を止める技などを紹介し、



マイヘリコプター製作の様子

子供たちに「空へのあこがれ」「あこがれから生まれる科学への興味」そして「ものづくりの楽しさ」を体験してもらいました。

### 先生として参加しました

ローターの揚力実験、形になっていくヘリに子供たちがどんどん笑顔になっていきました。「科学の力」と「ものづくりの楽しさ」を体験したこの子たちの中からエンジニアが生まれたらいいなと思うイベントでした。



航空宇宙カンパニー 企画本部企画部  
とびなが よしなり たざわ げん  
(左から) 飛永 佳成 田澤 元

## 地域社会交流会(明石工場)

勤労感謝の祝日を利用して近隣地域の小学生とその家族計201名をお招きし、バスツアーでの明石工場見学と、企業ミュージアム「カワサキワールド」の見学を楽しんでいただきました。

工場では、工場事務所長が子供たちに「おじさんはね〜」という語り口で工場の仕事や歴史について紹介し、また保護者の方々には「地域とともに発展する工場でありたい」旨のご挨拶をしました。お昼は工場の食堂で食べていただきました。

カワサキワールドでは、「何がいちばん面白かった?」というインタビューに、低学年の男の子が「新幹線です!」と一生懸命に答えてくれました。



明石交流会

## 川崎重工グループ「CSR報告書2012」についてのご意見を 磯辺剛彦 慶應義塾大学大学院教授に伺いました。



慶應義塾大学大学院教授  
いそへ たけひこ  
**磯辺 剛彦**

### 全体を通しての感想・評価

中期経営計画の最終年ということもありますが、報告書全体を通してストーリー性やメッセージ性が強く打ち出されています。とくに「環境への取り組み」と「社会貢献」については、川崎重工グループが目指す環境経営の姿がとても明確に示されています。さらに、CSR課題項目の取り組みに対する自己評価について、これまでも社内的な取り組み項目への評価は高かったのですが、今回は株主や顧客など、社外との関係についての項目の評価も高くなっています。地道なCSRの取り組みが完成形に近づいているものと評価できます。

ただ、全社取り組み項目とカンパニー別取り組み項目の評価を比較することができません。全社と各カンパニーの評価項目の比較分析などが、今後の課題として残されているようです。

### B to Bブランドの取り組み

経営トップのメッセージの中で言及されていますが、2012年4月に設立されたマーケティング本部には大きな役割が期待されています。グローバル時代においては、たとえB to B企業であってもマーケティング能力が求められてい

ます。川崎重工グループが売っているのは製品でも技術でもなく、顧客の問題を解決するソリューションです。そこでは顧客ニーズを見つけ出し、その解決策を提案し、顧客満足を高めることが求められます。

### 川崎重工グループの技術力

川崎重工グループの各カンパニーの事業領域はまったく違っていますが、環境やエネルギーのソリューション技術を保有しているところは共通しています。しかも、その技術は世界の最先端のものです。さらに、それぞれの技術を単独ではなく有機的に組み合わせることによって高い価値を社会に提供できます。そのような技術の組み合わせによって、具体的にどのような価値を社会に提供できるかを示すことも必要です。その中でも、東日本大震災を教訓に生まれた分散型のエネルギーシステムのコンセプトはとてユニークな価値を提供しています。

### 有識者ダイアログについて

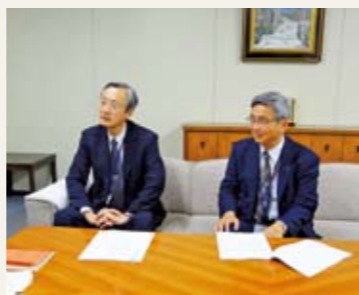
初めて開催された有識者ダイアログの中で、たくさんの貴重な意見が出されています。各有識者に共通している意見は、CSRと事業を結びつける取り組みを求めていることです。この報告書に描かれている「環境ビジョン2020」は、川崎重工グループにとって環境経営そのものがコア・コンピタンスになること、そして「Global Kawasaki」のブランドの根幹であることを示しています。企業に対する社会からの環境経営の要請は、川崎重工グループにとって重大な事業機会であることを認識すべきだと思います。

### 第三者意見を受けて

磯辺先生には有識者ダイアログでも貴重なご意見をいただきましたが、CSR報告書への第三者意見ということで当社グループの活動に対し改めて一定の評価を頂戴し感謝しております。今後の課題についてはご指摘いただいたことを社内でも共有し、幅広い関係者で話し合いながら前向きに推進していく所存です。

特に事業活動に関しましては、「お客様課題のソリューション」と「川崎重工グループが保有する知的資産の有機的な組み合わせ」という重要な部分について示唆をいただきました。私どもがどのような社会を目指し、どのような新しい価値を提供しようとしているのか、今後さらに積極的にお伝えしていきたいと思っております。

川崎重工工業株式会社  
CSR推進本部 本部長・執行役員 **橋本 芳純** (写真左)  
CSR部 部長 **福田 豊** (写真右)



## 会社概要

### 川崎重工工業株式会社

設立年月日 | 1896年10月15日

本社所在地 | 東京本社

〒105-6116 東京都港区浜松町2丁目4番1号  
(世界貿易センタービル)

神戸本社

〒650-8680 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号  
(神戸クリスタルタワー)

代表者 | 取締役社長 長谷川 聡

資本金 | 104,484百万円(2012年3月31日現在)

発行済株式総数 | 1,671,892,659株(2012年3月31日現在)

売上高 <連結> 1,303,778百万円(2012年3月期)  
<単体> 1,003,390百万円(2012年3月期)

従業員数 <連結> 33,267人(2012年3月期)  
<単体> 14,617人(2012年3月期)

## 事業所一覧

### 国内事業所

神戸本社	東北支社	沖縄支社	兵庫工場	播磨工場
東京本社	中部支社	岐阜工場	西神戸工場	坂出工場
東京事務所	関西支社	名古屋第一工場	西神戸工場	
技術研究所	中国支社	名古屋第二工場	明石工場	
北海道支社	九州支社	神戸工場	加古川工場	

### 海外事務所

北京事務所
台北事務所
デリー事務所
モスクワ事務所

### 海外主要関係会社

Kawasaki Heavy Industries (U.S.A.), Inc.	Kawasaki Machine Systems Korea, Ltd.
Kawasaki Motors Corp., U.S.A.	Flutek, Ltd.
Kawasaki Precision Machinery (U.S.A.), Inc.	武漢川崎船用機械有限公司
Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A.	川崎精密機械(蘇州)有限公司
Kawasaki Rail Car, Inc.	川崎重工(大連)科技開発有限公司
Kawasaki Robotics (U.S.A.), Inc.	川崎重工諮詢(上海)有限公司
KCMA Corporation	川崎重工産業機械貿易(上海)有限公司
Canadian Kawasaki Motors Inc.	川崎精密機械商貿(上海)有限公司
Kawasaki do Brasil Indústria e Comércio Ltda.	川崎機器人(天津)有限公司
Kawasaki Motores do Brasil Ltda.	川崎重工業(香港)有限公司
Kawasaki Heavy Industries (UK) Ltd.	Kawasaki Motors Enterprise (Thailand) Co., Ltd.
Kawasaki Precision Machinery (UK) Ltd.	Kawasaki Gas Turbine Asia Sdn. Bhd.
Kawasaki Robotics (UK) Ltd.	KHI Design & Technical Service Inc.
Kawasaki Gas Turbine Europe GmbH	Kawasaki Motors (Phils.) Corporation
Kawasaki Robotics GmbH	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd.
Kawasaki Heavy Industries (Europe) B.V.	PT. Kawasaki Motor Indonesia
Kawasaki Motors Europe N. V.	India Kawasaki Motors Pvt. Ltd.
Kawasaki Heavy Industries Middle East FZE	Kawasaki Motors Pty. Ltd.

### 国内主要関係会社

(株)KCM	川重ジェイ・ビー・エス(株)	川重原動機工事(株)
(株)KCMJ	アルナ輸送機用品(株)	川重艦艇エンジンサービス(株)
川重商事(株)	川重車両テクノ(株)	(株)アーステクニカ
川崎油工(株)	川重車両コンボ(株)	川崎エンジニアリング(株)
(株)カワサキライフコーポレーション	札幌川重車両エンジニアリング(株)	KEE環境サービス(株)
川重テクノロジー(株)	(株)日本除雪機製作所	川重ファシリテック(株)
ベニックソリューション(株)	日本飛行機(株)	(株)アーステクニカM&S
川重東京サービス(株)	川重岐阜エンジニアリング(株)	(株)カワサキモーターズジャパン
川重サービス(株)	(株)ケージーエム	(株)ケイジェス
(株)ケイキャリアパートナーズ	川重岐阜サービス(株)	(株)テクニカ
川重神戸サポート(株)	川重冷熱工業(株)	(株)ケイテック
川重マリンエンジニアリング(株)	川重明石エンジニアリング(株)	ユニオン精機(株)
カワサキテクノウェーブ(株)	(株)カワサキマシシステムズ	カワサキロボットサービス(株)